

佐渡米通信

こめへる

2026年 8 月号

発行日:2026年8月

発行：佐渡農業協同組合 担当：JA 佐渡 営農振興部 販売企画課
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

穂肥指導会

7月3日から23日までの間、佐渡管内のモデル展示圃場約70か所で穂肥指導会が行われました。穂肥とは穂の籾を充実させることを目的とした追肥で、お米を登熟がする上で必要不可欠な作業になります。

指導会では穂肥の施用時期を判断する上で必要な幼穂の長さを確認する方法や、葉色は例年より低下しており各支店営農窓口で無償貸し出ししているSPAD(葉緑素計)を利用し、穂肥の量を調整することも呼びかけられました。



指導員が指導会でSPAD(葉緑素計)を使用し、適切な時期と量を判断して欲しいと呼びかけている様子

今年も研修生が続々と

JA佐渡では農業を始めたい方へ就農までの準備期間を支援し、担い手の確保を目的とした就農研修制度を2021年に立ち上げました。この制度は3年間JA佐渡の職員となり、給料や社会保険完備といった環境のもとで、将来の就農に向けた農業研修を行う制度です。研修は就農希望者の希望する品目を中心に、佐渡島内の農業法人や先進農家のもとで実施し、研修品目や研修内容は希望に応じてフレキシブルに組み立て・調整しています。

今年度から新たに2名の研修生が研修をスタートし、そのうちのお一人「犬嶋蓮さん」をご紹介します。犬嶋さんが農業に興味を持ったきっかけは、自分が「お米が好き」というのもあるのですが、東京に住んでいた時の米不足がきっかけになったそうです。また農家が減っているというニュースも聞いていたので、「このままではまずいのでは?」と危機感を持ったそうです。

研修1年目の今年は水稻を主に研修されており、具体的には朱鷺と共生した米づくり(農薬や化学肥料を5割減らした栽培や栽培期間中不使用米や自然栽培米)の技術を研修されています。暑いなかでも重たい中耕起除草機(カルチ)を押しながらの作業は大変ですが、この作業を頑張れば美味しいお米が仕上がると考えると楽しいと仰っていました。

JA佐渡では今後も、東京等で開催される新農業人フェアへの出展や就農相談会の開催を通じ研修生を募集し、佐渡の農業や農地を維持し続けられるよう取り組んで参ります。



就農研修生の犬嶋蓮さん



自然栽培米の圃場で中耕起除草機の作業を行っている様子



作業を行っている最中にはトキが上空を飛んでいました。